

紀尾井だより

5/6 May / June 2022 [Vol.153]

インタビュー

紀尾井 明日への扉

田中 渚 (ハーブ)・吉見 友貴 (ピアノ)

湯川 亜也子 (メゾソプラノ)・香月 麗 (チェロ)

邦楽主催公演 新 紀尾井素踊りの会 第三回

吾妻 徳穂

連載

邦楽名曲解体新書 私のおすすめの一曲

薩摩琵琶『仲秋詩抄』

クラシック音楽のテーマに基づく3つの話

ジャズをめぐる3話



香月麗

チェロ



湯川亜也子

メゾソプラノ



吉見友貴

ピアノ



田中渚

ハープ

明日への扉2022

フレッシュさと共に若くして驚くべき才能を持ったヤング・アーティストをご紹介してきた“紀尾井明日への扉”シリーズ。いよいよ10年目を迎えた2022年も、4名の厳選された若手音楽家が揃い、華やかかつ真剣勝負のリサイタルを展開します。出演者は皆将来もちろん楽しみです、すでに今聴くべきアーティストです。この特集では、4人の紹介を兼ねて、出演への意欲や今回のプログラムのコンセプトなどを伺いました。

協賛：三菱地所株式会社



三菱地所 presents

紀尾井

明日への扉

「明日への扉」への出演オファーについて

田中 お声掛けいただいた時はまず驚きました。同時に嬉しさと緊張感がやってきました。そして今までお世話になった方々や先生たちに今の私の音楽を届けられること、そして何よりもハープの美しい作品を素晴らしいホールで多くの方々と共有することができるとてもよい機会だと思いました。

吉見 紀尾井ホールは誰もが憧れるホールですので、飛び上がるほど嬉しかったです。そしてその素晴らしい響きと自分の音楽がどのように調和するのか、今からとても楽しみです。

湯川 憧れのステージで、心から信頼のおける共演者たちとの演奏が叶いますことにただただ胸がいっぱいです。世界的に心痛む大変な情勢が長期的に渦巻く今、一人ひとりが自身に向き合い、深く問いかけ続ける時間の中にいるように思います。何もできないもどかしさや苛立ちも巡りますが、だからこそ私は歌を通して繋がれるご縁の一つひとつと大切に向き合っていきたいです。そしてこの演奏会が叶いますことに、感激し、興奮しています。語り尽くせない想いを、心からの声に乗せて、おひとりでも多くの皆さまに少しでもお届けすることができましたら幸いです。

香月 紀尾井ホールは憧れの場所で、人生の一番最後にそこに行き着くことが私の密かな目標でした。このことは今まで誰にも話したことがなかったのですが、願っていたらこんなにも早く叶いました。



今回のプログラムのコンセプトとこだわり

田中 前半にハープのオリジナル作品を、後半には名曲を基にした作品や知名度のある作曲家を取り入れ、19、20世紀の音楽を中心に組みました。どの曲もハープ作品のスタンダードなレパートリーです。国際コンクールの課題曲になるような

大曲ばかりで数々の技巧テクニクを伴いますが、デビュー・リサイタルに相応しい華やかで美しい作品たちです。私のハープ人生のきっかけともなった作品も入れています。また、今回のプログラムは実は短調が始まる曲があっても、どの曲も必ず終わりは長三和音になるんです。そこに希望、祈り、期待等のポジティブな意味合いを込めてもいます。昨今の世界状況や初リサイタルとして、私が音楽で表現したいこと、また、若い今だからできる内容だと思っています。

吉見 今、最も弾きたい作品を中心にプログラムしました。特に後半のシューマンは、留学中に新しく取り組んだだけでなく、自分の音楽の殻を破ってくれた大切な作品なので、真っ先にこの曲を中心にしたいと思いました。そして、前半は一風変わったプログラムです。一見何の繋がりもないように思えますが、各曲の間には調性的なつながりがあります。これ



は私がリサイタルのプログラムを組む上でとても大事にしている要素で、全く違う時代の作品ですが、自然な流れでお聴きいただけたらと思います。そして私にとって紀尾井ホールはどっしりとした豊かな響きのイメージがありますので、そのイメージから離れた曲を弾いてみたいと思います、プログラムしました。

湯川 『一夜の演奏会の中で、時代を自由に引き来できるようなオールフランスプログラム』―私がフランス留学を決意するきっかけとなった近代フランス歌曲、そしてその留学先で学びを深められたフランス・バロック音楽、この両者を掛け合わせたプログラムをいつの日か日本で実現させたいと、以前から思っていました。時に自身の音楽人生の分岐点となってくれたり、時に寄り添ってくれたり、その都度新しい自分と出会えるような感覚を刻んでくれた作品ばかりです。日本で耳にするには少し珍しい作品も並びますが、それぞれの作曲家が作品世界に描き



込んだ喜怒哀楽、その心の温度、強い憧れ、青く広がる空、時には香りや湿度……を、音楽を通して自由に語り合い、会場の皆さまとともに時空を超えたフランス音楽の旅ができましたら望外の喜びです。

香月 今回はデビュー・リサイタルですので、この機会を通じて私自身新しい発見ができるような曲を選びました。またお客さまにもチェロとピアノのデュオが織り成す様々な音を楽しんでいただけるプログラムになっていると思います。スイスで師事しているグザヴィエ・フィリップ先生はフランス人で、ロストロポヴィチの弟子です。そこからドビュッシィやプロコフィエフを選びました。メンデルスゾーンは今まで取り組む機会がなかったのですが、紀尾井ホールさまがこのソナタを提案してください、今弾くしかない!と思います。とてもフレッシュで涙が出るほど眩しい曲だと思えます。どの曲も枠を超えたパワーが溢れる作品ばかりです。

今回ご紹介したインタビューは、公演が近づきましたらロング・バージョンとしてそれぞれ公開予定です。そちらもどうぞお楽しみに!



第34回
香月 麗(チェロ)
Urara Katsuki

2023
3/3
金
19:00

[曲目]
ドビュッシィ チェロ・ソナタ
プロコフィエフ チェロ・ソナタ
メンデルスゾーン チェロ・ソナタ第2番 ほか

第33回
湯川 亜也子(メゾソプラノ)
Ayako Yukawa

12/15
木
19:00

[曲目]
プーランク 画家の仕事
シェーラザード〜アジア
歌劇《アティス》
〜希望とはなんと愛しく
なんと甘いことか
クレランポー 《メデ》 ほか

第32回
吉見 友貴(ピアノ)
Yuki Yoshimi

9/9
金
19:00

[曲目]
ヤナーチェク 霧の中で
ベートーヴェン ピアノ・ソナタ第31番
ショスタコーヴィチ 前奏曲とフーガ第15番
シューマン 交響的練習曲

第31回
田中 渚(ハープ)
Nagisa Tanaka

7/28
木
19:00

[曲目]
ゴドフロワ ヴェニスの謝肉祭
ファリャ スパニッシュ・ダンス第1番
フォーレ 塔の中の王妃
ツァーベル グノーの歌劇《ファウスト》の
主題による幻想曲 ほか

※公演開催についての最新情報は紀尾井ホールウェブサイトをご確認ください。

新紀尾井素踊りの会

第三回

吾妻徳穂

素踊りの面白さ

「素踊り」、読んで字のごとく「素」で踊る舞踊です。

ここでいう「素」とは「特別な扮装を纏わない」ということです。男性の場合、地頭(髪などをかぶらない、という意味)に紋付袴と白足袋、女性の場合は髪をかぶり紋付と白足袋を纏うのみで踊ります。

例えば女性であれば、煌びやかな衣装に身を包んで踊る「衣装付」の歌舞伎舞踊は、その纏っているもので、踊り手が扮している役の立場や境遇がわかり、振袖などが激しく動くことで、踊りの中に秘められた感情をダイナミックに見せる効果があります。



しかし「素踊り」は必要最小限の実に簡素な出立ちです。これは己の身体のみという究極にシンプルな状態で観客の目に晒される、ということなのです。そのため、舞台上でその曲世界の雰囲気や、役の立場や心情を、観客に思い起こさせなければなりません。

歌舞伎舞踊を「素」で踊る場合、「素踊り」の踊り手には、「衣装付」で表現される躍動感などを、衣装を纏っている時と同じように魅せる力、いわば観客の想像を誘発していく描写の力が求められるのです。

吾妻徳穂の魅力

今回、紀尾井ホールの舞台上で「素踊り」の魅力を存分に見せてくださるのは、二代目吾妻徳穂さんです。

祖母である初代吾妻徳穂さん(1909~1998)は、大正・昭和・平成をまたいで活躍した女性日本舞踊家の第一人者です。「アズマカブキ」と呼ばれる海外公演を数多く行い、日本舞踊の魅力を世界に発信してきた功労者でもあります。

この初代徳穂さんが確立した流派「吾妻流」の継承者として、幼いころからお婆さまの元で修業を積み、平成二十六年に「吾妻徳穂」の名前を二代目として襲名しました。

「どれだけ女性の特徴を出して踊れるか」と徳穂さんご本人も述べているように、曲線美や立ち居振る舞い、動きのしなやかさなど、骨格や体型が醸し出す美しさを、踊りの中で最大限追求していくのが「吾妻流」の踊りです。加えてそこに、曲の中に表れる役々の立場・境遇・心境の変化など内面的な要素が身体の中に浸透していくことで、まさに唯一無二の「美」が、数多の「細部に宿る」踊りが生まれるのです。

今回の公演では、吾妻徳穂さんが『島の千歳』と『静と知盛』を「素踊り」で務めます。

『島の千歳』では、白拍子(平安時代に登場した舞を舞う職業)が今様(白拍子が歌う歌)を歌いながら踊り、祝祭的な雰囲気を醸し出す華やかな世界を体感できるでしょう。一方『静と知盛』では、悲劇の武将・源義経の恋人である静御前の凛としたしなやかさと、平家の滅亡まで戦い続けた平知盛の勇ましき荒々しさ、性別も含めて全く異なる二人の人物の姿を、舞踊家としての卓越した表現で描き出します。

曲に登場する白拍子や静御前、そして平知盛それぞれの姿が目の前にありありと見えるような体験ができれば、「素踊り」を存分に楽しめている証しかもしれません。

日本舞踊家の舞台とは、長きにわたりその身ひとつで人間の喜怒哀楽を描き出



すことに心血を捧げてきた人間の生き様を見せる場でもあります。

過剰なものを削ぎ落とし、極限までシンプルな状態にした時にこそ、浮かび上がってくる美しさがあります。それは決して誰にでも出せるものではありません。一途に芸を磨き上げてきた者にしか出すことのできない世界なのです。

今回の舞台は、吾妻徳穂さんの磨き上げられた感性と描写力で、「素踊り」という究極にシンプルな美の世界へ、皆さまをご案内するものです。

ムトウ・タロー(文化芸術コラムニスト)

邦楽主催公演 新紀尾井素踊りの会 第三回 吾妻徳穂

【出演者】
吾妻徳穂(立方)、今藤長一郎、杵屋巳之助、杵屋正則(唄)、
稀音家祐介、杵屋彌四郎、今藤政十郎(三味線)、
梅屋右近連中(囃子)、渡辺保(お話)

【曲目】
長唄「島の千歳」
素踊りの魅力(お話)
長唄「静と知盛」

7/1
金
18:30

※公演開催についての最新情報は
紀尾井ホールウェブサイトをご確認ください。

薩摩琵琶

ちゅうしゅうしゅうしゅう

『仲秋詩抄』

お話／長須与佳さん

琵琶のルーツや
成り立ちは様々

琵琶は八世紀、ペルシャやインドからシルクロードを通じて日本に伝わってきました。正倉院にも宝物として琵琶は納められていますね。琵琶は雅楽で用いられ



ますが、他にも「盲僧琵琶」があります。

琵琶法師たちが辻説法の伴奏楽器として用いたものです。そして、『平家物語』を伴奏するために作られた盲僧琵琶よりもやや大型の琵琶が「平家琵琶」です。

時代は下って戦国時代、薩摩藩の島津忠良が武士の士気を高めるために、それまでの琵琶を改良して勇ましく男性的な音が出る「薩摩琵琶」を作りました。薩摩では藩士の多くが薩摩琵琶を習っていたので、西郷隆盛や大久保利通も弾いていたかもしれません。そう思うと親近感が湧いてきませんか？明治になって女性にも弾きこなせるような小型の「筑前琵琶」が作られました。

私が演奏するのは薩摩琵琶です。薩摩琵琶の撥は他の琵琶と比べてとても大きく、それで胴の部分にバシッと叩きます。胴には丈夫な桑の木を使っています。琵琶は歌う人の声の高さに合わせて調弦を行う楽器なので、薩摩琵琶の男性的な音色はこのように楽器の構造や調弦方法から生み出されているものといえます。

琵琶の魅力が詰まった名曲

楽器の説明が長くなりましたが、次に私の大好きな曲『仲秋詩抄』についてお話ししましょう。作曲家の牧野由多可先生が一九八〇年に作られた曲で、琵琶、尺八、十七弦の編成で演奏されることが多

い曲です。秋の竹林の情景が表されており、葉ずれのかすかな響きが聴こえる静寂から始まり、やがて風が吹きすさぶ力強い展開となり、再び静かで清らかなエンディングに。琵琶の音色の繊細な余韻、柔らかさ、勇ましさ、全てが詰まっています。琵琶という楽器を熟知されている牧野先生が、その音色の魅力を余すところなく引き出してくださっている曲だと思います。

様々な琵琶の曲がある中で、演奏する側としてはトップレベルの難曲といえるでしょう。私が初めてこの曲を演奏したのは東京藝大の学園祭の時。今まで出したことの無いような高い音を出すことが求められ、弦を押さえる指の肉が割れるかと思っくらいに真っ赤な線ができました。音作りするのがとても難しく、そうであればこそ、弾けた時の達成感が大きい曲ですね。弾き終わった後は「へトへト」になって燃え尽きますが(笑)。

演奏を聴かれる方には、純粹に音色の美しさ、多様さを味わっていただきたいですね。ぜひ、琵琶に対するご自分のイメージを上書きしていただきたいと思います。というのも以前、ある年配のご婦人から「私、琵琶が嫌いな。子どものころ映画を観て、その時の琵琶の音が怖かったの」と言われたことがあったんです。それが心に引っかかっていたんです。もちろん、『耳なし芳一』の世界も琵琶の一つの側面ではありますが、それだけではない

んですよ、と言いたくて。それで、学校で出張授業や公演をする際は「琵琶ってこんなに楽しい楽器ですよ。」「きれいな音色なのよ」「かっこいい奏法でしょう?」と伝えるように心がけています。高校生から「琵琶ってロックですね!」と感想をもたらした時は、意外過ぎる表現だったのでびっくりしましたが、本人の感性に先入観なく響いたのだと思うと嬉しかったですね。

取材：文・イラスト／尾花 知美
(月刊『江戸楽』編集部)

長須与佳

琴古流尺八と薩摩琵琶を小学校四年生より始める。東京藝術大学音楽学部邦楽科卒業。NHK邦楽技能者育成会四十五期修了。第九回長谷校校記念くまもと全国邦楽コンクール第位最優秀賞・文部科学大臣賞奨励賞受賞。第二十八回茨城県新人演奏会奨励賞受賞。平成二十年茨城県那珂市より『ふるさと大使』を拝命。現在リストとして世界各国での公演や国内の学校訪問等を積極的に行う。



ジャズを めぐる 3話

「ジャズとクラシック」の関係は古く、それぞれ作品や演奏に互いの要素を取り込むなどリスベクトし合っている。例えば「バスとジャズ」というテーマだけでも、スウィング・シンガーズやオイゲン・キケロ・トリオ、ジョン・リス・ブラッド・メルドーらをトピックにコラムが書けてしまうほど。そこで本稿では20世紀のほんの一部を中心に紹介したい。

1 ジャズを取り入れた クラシック

ジャズの持つビート、音階、奏法、アドリブなどに魅入られ、可能性を見出した作曲家が、それら要素を取り入れたクラシック作品としては、古くはドビュッシー



ジョージ・ガーシュウィン

がラグタイムを用いて書いた《ゴリウオーグのケークウオーク》(1908)があげられる。その後、クルシエネクは歌劇《ジョニーは演奏する》(22)、シュルホフはピアノ協奏曲第2番《ジャズ風》(23)をはじめとする一連のジャズ・テイスト作品を、

ミヨーもニューヨークで聴いたジャズにインスパイアされバレエ音楽《世界の創造》(23)を、さらにラヴェルはブルースを取り入れヴァイオリン・ソナタ(27)やピアノ協奏曲(31)を書いた。こういった中、部分的な採用を超えてジャズとクラシックを完全に融合させたのがガーシュウィン。その代表作である《ラプソディ・イン・ブルー》(24)と《パリのアメリカ人》(28)はシンフォニック・ジャズと呼ばれる。

その後もストラヴィンスキーのラグタイム作品や《エボニー・コンチェルト》、アンタイルの《ジャズ・ソナタ》と《ジャズ交響曲》、ショスタコーヴィチの2つの《ジャズ組曲》などが生み出された。日本でも武満徹のジャズ好きは有名だし、その先輩黛敏郎も学生時代、ジャズバンドで活動していたこともあり、ブギウギとルンバによる《オール・デューヴル(オードブル)》などを書いている。

2 クラシックに目を向けた ジャズ

逆にジャズ界ではプレイヤーの演奏能力が上がるのに伴い、クラシックへの志向が高まった。そのよい例としては、クララ

ネット奏者のベニー・グッドマン(1909〜86)が挙げられる。彼はボストン交響楽団とモーツァルトの協奏曲を録音したり、バルトークへはコントラバス(38)を、またコープランドにも協奏曲(50)を委嘱し初演した。63年にはプーランクのソナタをバーンスタインと初演。57年に来日した折には日本フィルとモーツァルトのク

ラリネット五重奏曲を録音している(ヴァイオリンの一人は渡邊暁雄)。またグッドマンのバンドにいたピアニストのメル・パウエルは病気のため作曲に専念することになり、ヒンデミットに師事。90年にはピュリッツァー賞を受けるまでになっている。チャーリー・パーカーもヴァレーズに教えを乞うた。50年代には十二音技法を取り入れたプレイヤーまでも登場していた。

それとは別に最高のジャズ・プレイヤーがクラシックの旋律をジャズとして演奏もしている。オスカー・ピーターソンのショパンのワルツやチャイコフスキー《白鳥の湖》、ブラームス《ハンガリー舞曲》によるインプロヴィゼーションはその典型的かつ必聴の例といえるだろう。

3 オールラウンダー

両ジャンルで活躍した中ではアンドレ・プレヴィンやフリードリヒ・グルダ、ニコライ・カプースチン、チック・コリア、ウイント



ベニー・グッドマン

ン・マルサリス、近年ではダニエル・シムニーダーやファジル・サイなども有名だ。時代の流れとともに、互いの垣根はさらに薄らぎ、室内楽団体の世界でも、70年代の終わり頃にクロノス・クアルテットなどジャンルを横断する団体が現れ、エベーン弦楽四重奏団(99結成)、そして21世紀に入ってからアトムやヴィジョンといった弦楽四重奏団と続いている。

クラシックとジャズをめぐる紀尾井ホール公演

クアルテットの饗宴2022
エベーン弦楽四重奏団

6/16
木
19:00

CLASSICプログラム

6/17
金
19:00

CLASSIC+JAZZプログラム

共催：株式会社メロス・アーツ・マネジメント

※公演開催についての最新情報は紀尾井ホールウェブサイトをご確認ください。

2022年4月よりスタート「紀尾井みらいシート」

2022年度から小・中・高校生を無料招待する新たな「紀尾井みらいシート」制度を始めています。

紀尾井ホール、紀尾井小ホールの多彩な主催公演のラインナップから興味のある音楽を自由に選び、体験できる機会を、若い世代の皆さんに提供します。生の演奏を聞くことで音楽への扉が開かれて、未来の音楽ファンや次世代の演奏家誕生のお役に立てればと願っています。

- 対 象：小学1年生から高校3年生(保護者とのペアでご招待)
高校生は保護者の承諾書提示で本人のみの申込み可
- ご招待座席数：洋楽・オーケストラ5組10名様 邦楽3組6名様
- 募 集 期 間：各公演のチケット発売日の正午から公演の1か月前の正午まで
- 当 選 通 知：公演のおよそ3週間前ごろ
- 応 募 方 法：https://kioihall.jp/kioimiraiseat
上のURLからお申込みください。応募はウェブサイトの応募フォームからのみ受け付けます。応募者多数の場合は抽選となります。
- 2022年度公演：洋楽・14公演 オーケストラ・11公演 邦楽・9公演(前期は5公演)



紀尾井ホール室内管弦楽団 2022年度シーズンメンバー、若手指揮者研修生

若手演奏家を育成する「紀尾井ホール室内管弦楽団シーズン・メンバー」として、2022年4月から1年間、ヴァイオリンの富井ちえり、堀内星良、ヴィオラの栗林衣李が活動します。また「若手指揮者育成支援 研修生」として、同じく1年間、指揮の石井裕望が研修を開始します。どうぞ温かく見守ってくださいますよう、よろしくお願いいたします。



富井ちえり



堀内星良



栗林衣李



石井裕望

釜石市より感謝状をいただきました

2013年から2015年の3回に亘り紀尾井ホール室内管弦楽団(当時は紀尾井シンフォニッタ東京)は、東日本大震災の復興支援の一環として岩手県、福島県、宮城県を訪問し地域の皆さま、学生さんに演奏のレッスンやミニコンサートをこなしてきました。このたび訪問先の釜石市よりこの支援活動に対して感謝状が贈られました。



編集後記

冒頭では2022年度「明日への扉」の出演者インタビューをお届けしています。フレッシュな彼らの活躍と新緑が芽吹く季節が重なり、これからの公演が楽しみな内容となりました。そして、今号の表紙を飾っているのは、紀尾井ホール所有のアトリエ・フォン・ナーゲル社製フレンチ二段鍵盤のチェンバロです。紀尾井ホールで撮影を行い間近でチェンバロを見る絶好の機会になりました。可憐な音色の奏で方を調べたところ撥弦楽器であることが分かりとても勉強になりました。ちなみにピアノは打弦楽器です。楽器の歴史や進化の奥深さを感じた号となりました。(T)

今号の表紙

「チェンバロとビバーナム・スノーボール」

[協力] 花/hanadouraku

バロック音楽の鍵盤楽器といえばオルガンかチェンバロ。この時代の代表的作曲家ヨハン・ゼバスティアン・バッハは鍵盤楽器の名手として有名ですね。バッハはチェンバロを弾きながら自らの作曲法を確立していきました。チェンバロの音色にゆらゆらと揺れている花はビバーナム・スノーボール。若葉の頃には緑色の花が咲き始め少しずつ白に変化し最後は、純白の雪玉のように見えることからスノーボールと名付けられました。

紀尾井ホールにご支援いただいている企業および個人の方々です

紀尾井サポートシステム会員 (五十音順・「株式会社」等表記及び敬称略)

《特別協賛会員》 A.ランゲ&ゾーネ/日鉄ソリューションズ/三菱商事/三菱地所
 《みやび会員》 伊藤忠商事/大島造船所/KDDI/商船三井/菅原/住友商事/日本郵船/丸紅/三井住友銀行/三井物産/三井不動産/三菱商事/三菱地所/メタルワン ほか匿名2社
 《ひびき会員》 オカムラ/きらばし銀行/高砂熱学工業/竹中工務店/山下設計
 《みどり会員》 青鬼運送/赤坂維新號/赤坂 エクセルホテル東急/今治造船/ヴォートル/エーケーディ/NTTドコモ/荏原冷熱システム/鹿島建設/ザ・キャピトルホテル 東急/三協/清水建設/上智大学/西武リアルティソリューションズ/大成建設/千代田商事/テイスト・ライフ/東芝ライテック/永田音響設計/ニュー・オータニ/ハウス食品グループ本社/パナソニック/富士フィルムビジネスインベションジャパン/三井住友信託銀行/三菱UFJ銀行/三菱UFJ信託銀行/三菱UFJモルガン・スタンレー証券/ミュージジョン/明治座舞台/ヤマハサウンドシステム/ワークショップ21
 《おおい会員》 青木陽介/浅見 恵/足立友子/石崎智代/磯部治生/伊藤真理子/井上善雄/植竹浩樹/大垣尚司/大久保なほ子/太田清史/大久みどり/岡田章一/小川 保/片山國正/片山能輔/加藤善恵/神谷昌孝/菊池恒雄/木谷 昭/久保祐子/栗山信子/河野紗妃/坂詰貴司/佐久間庸行/佐部いく子/清水 正/清水多美子/清水康子/白土英明/鈴木 亮/高下謙吾/武上由佳/田中 進/外山雄三/中塚一雄/中西達郎/中村健司/名取正夫/西村剌美/原田清朗/日原洋文/北條哲也/堀川将史/牧本恵美子/松枝 力/松本美恵/丸井正樹/簗輪永世/宮島正次/宮原 薫/宮本信幸/陸田 実/村上喜代次/持留宗一郎/八木一夫/八木晶子/山内寿美/吉峯裕毅/渡辺弘次
 ほか匿名34名 計181口 (2022年4月1日現在)

特別支援会員 (五十音順・「株式会社」等表記略)

アステック入江/五十鈴/NST日本鉄板/NSユナイテッド海運/NSユナイテッド内航海運/エヌエスリース/エヌテック/王子製鉄/大阪製鉄/丸鋼工業/草野産業/黒崎播磨/合同製鉄/小松シャリング/山九/産業振興/三晃金属工業/サンユウ/三洋海運/山陽特殊製鋼/ジオスター/新日本電工/スガテック/大同特殊鋼/大和製罐/高砂鐵工/高田工業所/鶴見鋼管/DNPエリオ/テツゲン/東海鋼材工業/東邦シートフレーム/トピー工業/日亜鋼業/日鉄SGワイヤ/日鉄エンジニアリング/日鉄倉鋼管/日鉄環境/日鉄ケミカル&マテリアル/日鉄建材/日鉄鋼管/日鉄鋳業/日鉄工材/日鉄鋼線/日鉄鋼板/日鉄興和不動産/日鉄ステンレス/日鉄精鋼/日鉄精密加工/日鉄総研/日鉄ソリューションズ/日鉄テックスエンジ/日鉄ドラム/日鉄物産/日鉄物流/日鉄物流君津/日鉄物流八幡/日鉄保険サービス/日鉄ボルテン/日鉄溶接工業/日本金属/日本触媒/濱田重工/富士鉄鋼センター/不動テトラ/幕張テクノガーデン/松菱金属工業/三島光産/宮崎精鋼/吉川工業/ワコースチール
 日本製鉄 (2021年度、匿名一社除く)

2.11(金)・12(土) 紀尾井ホール室内管弦楽団 第129回定期演奏会

アンケートより

明るく軽やかでいながら、低弦の十分に利用した充実の響きのモーツァルト、一瞬「ばらの騎士」ではないかと思わせたシュトラウス。古典との響きの対比も見事。洗練として、若きベートーヴェンの自己への期待と意気込みが伝わって来る2番。芯のある響き、軽妙なニュアンスもあり、申し分ない。指揮者の実力と経験からくる熟達さは素晴らしい。オケがコロナを経て力強さを増した。今後が楽しみ。



写真© ヒダキトモコ

2.16(水) 紀尾井 明日への扉 第30回 小林志成(ヴァイオリン)

2度の延期を経て行われた小林志成さんの演奏会。クラシックからタンゴまで幅広いプログラムでお楽しみいただきました。



写真© 堀田力丸

2.27(日) 「伊賀越道中双六 岡崎の段」 竹本千歳太夫×豊澤富助

アンケートより

太夫、三味線とも演奏がすばらしかったです。特に90分の長時間、一組の太夫三味線で、最後まで声や音が衰えることなく演奏されたことに感動しました。



写真© 堀田力丸

紀尾井友の会 ファイナル・イベント <2>

《紀尾井レジデント・シリーズ》始動☆多
葵トリオの「いま」を聞く

3月14日(月)に、「紀尾井レジデント・シリーズ」の開幕を飾る葵トリオを迎えて、演奏を交えたトークイベントを開催しました。メンバーの小川響子さん(Vn)、伊東 裕さん(Vc)、秋元孝介さん(Pf)に、これから3年間の意気込みや日ごろのプライベートなことまでたくさんお話を伺いました。ミレニアル世代3人の演奏に対する向き合い方や、それぞれの個性を身近に感じた、あっという間のひと時でした。



公式SNSで最新情報配信中



チケットのお申込み

紀尾井ホールウェブチケット <https://kioihall.jp/tickets>

